

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	80	事務事業名 (中事業名)		ゲンジボタルの里管理事業 ( )					
予算科目	10	05	01	大事業	03	中事業	00	担当課名	生涯学習課
総合計画施策コード	332		事務開始年度		平成2年度		備考		
根拠法令等	-						作成月	令和元年7月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	ゲンジボタルの里を維持管理することにより、市内の貴重な自然環境の保全とともに一般市民や地区内小学生・中学生に自然の大切さを学ぶ機会と憩いの場を提供するため。
事業の対象 (誰(何)のために)	一般市民
事業の概要 (具体的に何を)	市はゲンジボタルの里区域を借り受け、自然観察の木道等を設置している。また、平原地域の自然環境とホタル生息域の保護活動を目的に設立された平原ゲンジボタルの里保存会と施設の管理業務等の委託契約を締結している。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	3,074,105円	2,849,671円	2,904,000円	
事業にかかる人工	0.20人	0.20人	0.20人	
事業にかかる人件費②	1,420,922円	1,433,482円	1,446,845円	
総事業費③(①+②)	4,495,027円	4,283,153円	4,350,845円	
総事業費の内訳③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	4,495,027円	4,283,153円	4,350,845円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	-211,874円	H30 総事業費③の対前年度比率	-4.71%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要		金額
	施設整備工事	木道改修、危険木伐採		1,321,920円
	ゲンジボタルの里管理委託料	ホタル祭りの実施及び施設管理、清掃除草作業、施設内の自然保護・監視など		765,000円
	敷地借上料			525,499円

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	ホタル祭り期間中の飛翔数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	300	匹	300	匹	300	匹
	実績値	140		305		*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	ホタル祭り来場者数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	5,000	人	5,000	人	5,000	人
	実績値④	4,368		4,104		*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		1,029円		1,044円		*****	

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	施設管理、環境保全、イベント行事
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	市内でホテルを鑑賞できる貴重な自然が残っている地区であり、地域の小中学生の貴重な学び場となっており終期は見込めない。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない —:いずれにも該当しない

評 価	評 価 項 目		評 価	評 価 項 目		評 価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
評 価	妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	○
		国・県・市・民間との役割は適切か	◎		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	◎
		変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	◎		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	◎
		事業に対する市民ニーズを把握しているか	○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	◎
評 価	有効性	事業の目的は達成できているか	◎	公平性	受益者に偏りはないか	◎
		事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	◎
		事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	○		受益者負担の割合は適切か	—
		他市町村と比べて上位に位置しているか	—		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント		適正に遂行されていると考える。				
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	ホテル祭り期間中は、天候に左右されるものの毎年4,000人前後の鑑賞者が訪れる。ホテル保全地域として周知され、環境を学ぶ機会が提供できていると考える。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	事業の実施はゲンジボタルの里保存会が主導的に行っている。					
事業全体の課題	害虫等による枯れ木がここ数年多くなっており、危険木の撤去を行うことにより、日当たり等が良くなり、施設周囲の環境が変化してきている。観察道は天然木を使用しているため、風雨による腐食箇所が多く、毎年改修工事を必要としている。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	近隣市に同程度規模の施設がない。
---------------	------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	環境保全課と連携して平原ゲンジボタルの里保存会の活動紹介やホテルの飛翔数増加の取り組みを考えては(R1.12月 他課職員の意見)
-----------------	--

●改善案【ACTION】

今後の改善策	市、保存会、小中学校、民間団体との連携をより一層強化し、ホテルの里の自然環境を守ります。
--------	--

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	引き続き自然環境保全と市民への自然の大切さを訴え、学びと想いを提供してください。
----------	--

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	81	事務事業名 (中事業名)	青少年健全育成事業 ( )						
予算科目	10	05	02	大事業	01	中事業	00	担当課名	生涯学習課
総合計画施策コード	363		事務開始年度		昭和54年度		備考		
根拠法令等	西尾市少年愛護センターの設置及び運営に関する規則						作成月	令和元年7月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	青少年の非行防止や健全育成のため。
事業の対象 (誰(何)のために)	青少年
事業の概要 (具体的に何を)	西尾市少年愛護センター運営協議会運営協議会委員による啓発活動、西尾市少年愛護センター少年補導委員による街頭補導活動、「ふるさとワクワク体験塾」を実施。なお「社会を明るくする運動・西尾市青少年健全育成市民大会」と市制65周年記念事業「たくましい西尾っ子大会」は台風接近のため実施出来ませんでした。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	1,785,130円	3,436,924円	1,923,000円	
事業にかかる人工	0.40人	0.50人	0.40人	
事業にかかる人件費②	2,841,845円	3,583,704円	2,893,690円	
総事業費③(①+②)	4,626,975円	7,020,628円	4,816,690円	
総事業費の内訳③	使用料・手数料	0円	0円	
	国からの支出金	0円	0円	
	県からの支出金	0円	0円	
	市費	4,551,375円	6,953,428円	
その他	参加費	75,600円	67,200円	64,000円
H30 総事業費③の対前年度差額	2,393,653円	H30 総事業費③の対前年度比率	51.73%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	その他委託料の増(対前年度比1,769,506円増)による。 30年度2,515,820円-29年度746,314円=1,769,506円 (主な理由) 市制65周年記念事業たくましい西尾っ子大会に係る事業費1,795,903円。			
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要	金額	
	たくましい西尾っ子大会事業委託料	会場設営費、参加団体活動費など。ただし開催当日に台風が接近したため大会は中止。	1,795,903円	
	ふるさとワクワク体験塾事業委託料	開催回数8回、延参加者242人	719,917円	
	少年補導委員街頭補導活動謝料	実施回数206回、延べ従事者533人	528,000円	

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	少年補導委員街頭補導活動の実施回数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	230	回	230	回	230	回
	実績値	223		206		*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	少年補導委員街頭補導活動の延従事者数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	600	人	600	人	600	人
	実績値④	567		533		*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		8,160円		13,172円		*****	

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	ふるさとワクワク体験塾の企画運営
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	青少年の健全育成のため、行政、家庭、学校、地域での連携が必要であり、本事業に市が関わっていくことは必要と考え終期は見込めない。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		◎	単位コストは、前年を下回っているか	○	
	国・県・市・民間との役割は適切か		◎	事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	◎	
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		◎	委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	◎	
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		○	事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○	
有効性	事業の目的は達成できているか		◎	受益者に偏りはないか	○	
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		◎	受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	○	
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		◎	受益者負担の割合は適切か	○	
	他市町村と比べて上位に位置しているか		-	サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	○	
評価の総合的なコメント	適正に遂行されていると考える。					
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	青少年の健全育成は継続的に活動していくことが必要と考える。地域・各種団体と協力し事業を進めていく。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	ふるさとワクワク体験塾とたくましい西尾っ子大会は各実行委員会へ委託。少年補導委員街頭補導活動は、小・中・高校PTA、保護司など多くの団体と協力して実施している。					
事業全体の課題	ふるさとワクワク体験塾は好評であるが、指導者不足が問題となっている。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	街頭巡回回数 A市…89回 H市…2回
---------------	---------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	ふるさとワクワク体験塾…お泊りがしたい。体験したことを家で家族に見せてくれる。食事作りが良い。自分の意見を言う等進んで手伝ってくれるようになった。(H30年度アンケート)
-----------------	---

●改善案【ACTION】

今後の改善策	ふるさとワクワク体験塾実行委員会と話し合い、子どもの育成に良い体験ができるよう内容を見直す。
--------	--

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	総合計画の施策(363)「子ども・若者の育成支援」の効果がわかるような指標になると良いと思います。街頭補導活動の結果どのような効果があったのかをヒントに設定すると良いと思います。
----------	---

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	82	事務事業名 (中事業名)		成人式実施事業 ( )					
予算科目	10	05	02	大事業	02	中事業	00	担当課名	生涯学習課
総合計画施策コード	363		事務開始年度		不明		備考		
根拠法令等	-						作成月	令和元年7月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	新たに大人の仲間入りをする新成人の門出を祝福するとともに、社会人としての新たな自覚と誇りをもって、将来の西尾市の発展に貢献できるよう新成人を祝う集いを開催。
事業の対象 (誰(何)のために)	新成人…平成30年度(平成31年1月開催)は、平成10年4月2日から平成11年4月1日生まれで、原則として、西尾市に住民登録のある人
事業の概要 (具体的に何を)	市内各中学校出身者の代表で構成する成人式実行委員会が自分たちの成人式を自ら企画・運営して開催する。 平成30年度は、平成31年1月13日に開催。新成人の総数1,840人。成人式の参加者数1,446人。

### ●事業費の内訳【DO】

項目		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)
事業費①		4,448,837円	5,161,631円	5,140,000円
事業にかかる人工		0.50人	0.50人	0.50人
事業にかかる人件費②		3,552,306円	3,583,704円	3,617,112円
総事業費③(①+②)		8,001,143円	8,745,335円	8,757,112円
総事業費の内訳③	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	7,851,143円	8,595,335円	8,607,112円
	その他 広告収入	150,000円	150,000円	150,000円
H30 総事業費③の対前年度差額		744,192円	H30 総事業費③の対前年度比率 9.30%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要		金額
	成人式委託料	会場設営費(映像設備費含む)、アトラクション費、パンフレット印刷費、案内はがき郵送費		5,161,631円

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	成人式参加率					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	83	%	83	%	80	%
	実績値	82	%	79	%	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	成人式実行委員会開催数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	14	回	83	回	80	回
	実績値④	14	回	79	回	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度	平成30年度		令和元年度		
		571,510円	110,700円		*****		

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	成人式の企画・運営
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	令和4年実施
事業の終了時期が未定の場合の理由	新成人を祝う全国的社会行事であり、民法改正後（令和4年4月以降）も20歳を対象に「（仮称）20歳のつどい」として開催することが決定している。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない —:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価項目		
	評価	評価	評価	評価	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	○
	国・県・市・民間との役割は適切か	◎		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	◎		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか	◎		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか	◎	公平性	受益者に偏りはないか	◎
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	○
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	○		受益者負担の割合は適切か	—
	他市町村と比べて上位に位置しているか	—		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント	事業費が増加しているが、人件費によるものが大きく、効率化が難しく、コストは前年を下回りにくい。				
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める			
	(理由)	全国的に慣例化した行事であり、民法改正までは現行どおりの規模で市が関与していくことが望ましい。			
民間委託又は市民協働拡大の方向性					
事業全体の課題	民法改正までは現行どおり進めるが、民法改正後については内容・規模・手法ともに検討する必要がある。				

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	平成30年度（平成31年1月実施、予算に人件費は含まず）近隣市の実施状況 A市 出席率 73.8% B市 出席率 65.0%
---------------	--

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	これから西尾市を担っていく若者の支援、応援をすることは大変意義のある事業だと思います。参加した若者も大人としての責任を自覚するきっかけになると思われます。（R1・12月他課職員の意見）
-----------------	--

●改善案【ACTION】

今後の改善策	現状維持で推進します。令和4年4月以降の民法改正に伴う成年年齢の引き下げ後の成人式については、対象者を20歳として「（仮称）二十歳のつどい」へ変更し事業を継続する予定です。
--------	--

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	引き続き、記憶に残る成人式となるよう新成人の支援をしてください。
----------	----------------------------------

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	83	事務事業名 (中事業名)		家庭教育事業 ( )					
予算科目	10	05	03	大事業	02	中事業	00	担当課名	生涯学習課
総合計画施策コード	361			事務開始年度	平成17年度		備考		
根拠法令等	-						作成月	令和元年7月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	子どもたちが親や地域とのふれあいを深め、自立を支援する。子どものしつけや家庭教育を見つめ直す機会を設け、地域ぐるみで家庭教育の活性化を図る。
事業の対象 (誰(何)のために)	乳幼児・保育園・幼稚園・小学生・中学生とその親
事業の概要 (具体的に何を)	親子ふれあい体験、環境整備などを学校中心に活動しているおやじの会に委託。放課後に公民館等の地域の施設を活用し、子どもたちの安心・安全な居場所を設け、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する放課後子ども教室事業(寺子屋にしお)。家庭教育の充実を図るため、親子でともに学習し、活動する機会を提供する家庭教育講座を実施。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	7,642,487円	7,712,300円	9,252,000円	
事業にかかる人工	0.40人	0.40人	0.40人	
事業にかかる人件費②	2,841,845円	2,866,963円	2,893,690円	
総事業費③(①+②)	10,484,332円	10,579,263円	12,145,690円	
総事業費の内訳③	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	3,702,000円	3,162,000円	4,133,000円
	市費	6,781,332円	7,415,663円	8,011,690円
	その他 受講料	1,000円	1,600円	1,000円
H30 総事業費③の対前年度差額	94,931円	H30 総事業費③の対前年度比率	0.91%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要	金額	
	おやじの会応援ルーム 委託料	16校×70,000円	1,120,000円	
	寺子屋にしお指導員謝 礼	1時間@1,300円×年3,700時間(指導員25人、延べ年 733日)	4,810,000円	
	家庭教育講座(謝礼)	保育園・幼稚園(26園)43回、小学校(13校)22回、 中学校(6校)12回	748,500円	

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけ成果(成果指標)を得るために、どれだけ活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	家庭教育学級事業(おやじの会応援ルーム)延参加者数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	18,000	人	18,000	人	18,000	人
	実績値	17,976		16,575		*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	家庭教育学級事業(おやじの会応援ルーム)設置数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	20	団体	20	団体	20	団体
	実績値④	16	団体	16	団体	*****	
活動一単位当たりの コスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		655,271円		661,204円		*****	

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	家庭教育に関する行事の企画運営
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	地域とともに家庭教育を推進していくことを目的としており終期は見込めない。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない —:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	○
	国・県・市・民間との役割は適切か		◎		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		◎		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか		◎	公平性	受益者に偏りはないか	◎
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	○
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		◎		受益者負担の割合は適切か	—
	他市町村と比べて上位に位置しているか		○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント	適正に遂行されていると考える。					
事業の方向性	(評価)	2 今後は、内容を見直して事業を拡大する				
	(理由)	今後も地域と連携して子どもの健全な育成のため事業の拡大が必要と考える。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	今後もおやじの会や寺子屋にしおの設置数を増やす					
事業全体の課題	おやじの会や放課後子ども教室(寺子屋にしお)を市内全域に広めていきたいが、おやじの会の受託団体と寺子屋にしおの指導員及び開設場所の確保が難しい。家庭教育講座は学校・園の開催意向に偏りがあり公平性に問題が生じている。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	おやじの会 A市…2校 H市…7校 放課後子ども教室 A市…0校 H市…1校 家庭教育講座 A市…各公民館が小中学校・保育園に支援 H市…2回 (市が主催する講座)
---------------	---

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	関係各所に呼びかけを進めます。
--------	-----------------

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	年齢の異なる子どもたちや地域の人々との交流の機会を増やし、家庭教育の充実や地域の教育力の向上に努めてください。
----------	---

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	84	事務事業名 (中事業名)		吉良町公民館管理運営事業 ( )					
予算科目	10	05	04	大事業	13	中事業	00	担当課名	生涯学習課
総合計画施策コード	332		事務開始年度		昭和49年度		備考		
根拠法令等	西尾市公民館の設置及び管理に関する条例						作成月	令和元年7月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	市民が快適に吉良町公民館を利用することができるように施設の適切な運営及び維持管理を行う。
事業の対象 (誰(何)のために)	施設利用者(市民及び地域住民)
事業の概要 (具体的に何を)	市民が身近な学習・交流(各種サークル活動、会合等)の場として利用できるように部屋を貸し出しているほか、生涯学習講座や「公民館ふれあいの集い」を施設の行事として開催している。また、施設及び機械設備の維持管理や修繕などを実施。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	22,583,213円	12,831,297円	13,127,000円	
事業にかかる人工	0.30人	0.30人	0.40人	
事業にかかる人件費②	2,131,384円	2,150,222円	2,893,690円	
総事業費③(①+②)	24,714,597円	14,981,519円	16,020,690円	
総事業費の内訳③	使用料・手数料	1,321,901円	1,140,690円	655,047円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	22,589,210円	13,053,402円	14,951,543円
	その他 雑入	803,486円	787,427円	414,100円
H30 総事業費③の対前年度差額	-9,733,078円	H30 総事業費③の対前年度比率	-39.38%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	人件費を公民館施設管理事業にまとめたため。			
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要		金額
	施設維持管理委託料	空調設備等保守点検業務、床面等清掃業務、警備業務		8,286,000円

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	施設利用者数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	58,000	人	58,000	人	58,000	人
	実績値	53,481	人	47,369	人	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	講座数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	37	件	26	件	35	件
	実績値④	48	件	52	件	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度	平成30年度		令和元年度		
		514,887円	288,106円		*****		

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	施設維持管理委託（空調設備保守等）
事業の終了時期	令和元年度	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	
事業の終了時期が未定の場合の理由			

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		○	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	◎
	国・県・市・民間との役割は適切か		◎		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		◎		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	◎
有効性	事業の目的は達成できているか		◎	公平性	受益者に偏りはないか	◎
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	◎
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		◎		受益者負担の割合は適切か	◎
	他市町村と比べて上位に位置しているか		-		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント	施設利用に伴う公平性の確保や市民ニーズを把握したうえで改善措置を考慮するなど、市民目線での運営を常に心がけており、事業は概ね適正に執行されている。					
事業の方向性	(評価)	6 その他				
	(理由)	公共施設再配置実施計画により、令和2年度の早い時期にきら市民交流センター（仮称）支所棟に機能移転する予定。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	別の館において既に民間会社による指定管理を実施しており、吉良においても十分可能と考えられる。					
事業全体の課題	講座の企画や館の運営について、今後は民間のノウハウを活用し、より魅力的なものにしていくこともひとつの方法である。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	近隣市町においても公民館施設の管理運営事業を行っている。
---------------	------------------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	吉良町公民館は、令和2年度中に完成を目指す「きら市民交流センター（仮称）支所棟」に機能移転を行う予定である。新施設開館までは引き続き吉良町公民館の管理運営事業を継続していく。
--------	---

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	今後も利用者数が増えるための方策（講座数の増加など）を検討するとともに利用しやすい施設に努めてください。
----------	--